

## 「軌跡」巻頭言 夢を言葉にする

校長 櫻尾 尚樹

「言葉にして表現することというのは、目標に近づく一つの方法ではないかなと思っています」これは28年間のプロ野球人生を終えたイチロー選手が引退会見で話した言葉です。これまで数々の金字塔を打ちたて、超一流選手として長いプロ生活を続けることができた理由として挙げた言葉でした。

このイチロー選手の言葉を聞いたとき、私が本荘高校に勤務していた24年前の進路便りに掲載されていたある文章を思い出しました。皆さんの先輩である同窓生から、在校生である後輩達へ『挑戦者の気概』と題したメッセージです。その一部を紹介します。

「在校生諸君。しかし誰でも同じたった一度の人生なら、その中でも二度とない若い時点にたっている諸君が、後になってから、こうすれば良かった、ああすれば良かったと後悔するような人生だけは送るべきではありません。自分の思うことはすべて口に出して語るべきであります。(中略)年老いて悔いることは、逆境に置かれたことや失敗に終わったことではありません。思ったことを口に出して語れなかった自分に対し、又やりたかったことに挑戦しなかった自分自身に対し、人は怒り人は悔いるのであります。逆境に置かれることや失敗に終わることを恐れてはいけません。」

私達は夢や希望があったとしても、成し遂げられなかったり、失敗したら恥ずかしいと考え、自分の胸の中に留め置きがちです。人に話さなければ高望みだったと言われたり、失敗したこともなかったことにできるからです。

フランスでは多くの学校において、小学生のうちからノートや試験の答案をボールペンや万年筆で書かせるそうです。間違ったらそこに斜線を引き、新たに書き込みます。一見汚いノートや答案になりそうですが、そこには自分の確かな履歴が残ります。自分のやり方や間違った考えを客観的に「気づかせようとする」教育です。そこでは失敗や間違いをなかったことにせず、自らの成長に役立てることができるのです。

皆さんにはそれぞれ将来の夢や進路希望、様々な目標があると思います。それを言葉にして周囲の友達に、先生方に、家族に語ってください。声に出して宣言し、そして達成のために精一杯努力してください。当然失敗もあるし、上手くいかないこともあると思いますが、失敗は恥ずべき事ではなく、一生の財産になります。「間違いや失敗をなかったことにしない」ことが大切です。夢や希望を語ることは「未来の成長したイメージ」を言葉にすることです。それが夢の実現への道なのです。

『挑戦者の気概』はこう結んでします。

「超えられると解っている壁は、我々にとって、壁ではありません。壁は高ければ高い程、超えたときの喜びは大きく、そして又、たとえ超えられなかったとしても超えるために全力を尽くし努力した一瞬一瞬こそ我々の血となり肉となり人間としての真の力となるのです。君達が、常に挑み続けるものは自分自身という壁であります。その壁に向かって、挑戦し続けるのだという気概を持って歩き続けてください。」

高校時代は長い人生の中ではほんの短い期間かもしれませんが、その期間をどう過ごしたかでその後の人生は大きく変わります。この大切な3年間で夢や希望を言葉にし、その達成のために最大の努力をする時であって欲しいと願っています。